



同社が開発した移動用ボックスが並ぶ会場

移動用コンテナを販売 ケーアイ工業 移動販売需要に対応

コロナ禍でキッチンカーをはじめとする移動販売に注目が集まる中、富士市久沢の金属加工メーカー・ケーアイ工業はこのほど、軽トラックの荷台に設置する移動用コンテナを製造販売する「hacobo factory」を立ち上げた。自社の加工技術を生かした商品で、キッチンカーでの営業を目指す人の需要に対応。同社の稲葉大智さんは「今後もさまざまなモデルを展開し、営業を目指す人への提案の幅を広げていきたい」と思いを語った。

主に建材の金属加工を手掛ける同社は昨年7月、加工技術を生かした新事業としてキッチンカーの製造に着手。試作品として約1カ月で物販用コンテナ(未発売)を完成させた。その後は改良を加えてキッチンカーを開発するとともに、趣味や仕事などで多目的に使えるマルチカーの2種類を開発。個々の要望に応じるオプションも設定している。

工場内にはボックス内の導線を確認できる体験スペースを設けているほか、各種補助金の申請支援も行っており、営業に向けたサポートもしている。

29日には展示イベント「キッチンカー体験会」を同社駐車場で開いた。キッチンカーとマルチカーのPRをはじめ、現役のキッチンカーによるフードやドリンクの販売、営業準備セミナーを繰り広げ、多くの人にキッチンカーの魅力と営業のヒントを発信した。展示されたキッチンカーはこのほど改良された新仕様。同社従来の掃除のしやすさや清潔感といった長所をそのままに、独自開発したパネルを使用することで高強度化と断熱性の向上を図っている。開業セミナーでは、キッチンカーの運営経験を持つライフデザイナーオフィス、リトルエルの早川方史代表が講師を担当。事業に応じた車両タイプや購入方法、メリットとデメリットなどを紹介した。このほか相談コーナーも設けられ、富士地域産業支援センターBeBeレットふじの職員が起業に関して同社社員が購入に関する相談に対応した。稲葉さんは「徐々に増える問い合わせ件数から需要の高さを感じている。今後は販売用のボックスだけでなく、多彩な展開をできれば」と期待を寄せた。

（15：30読者募集付終了）